

坂井 美穂 議員 … 3件の一般質問



子育てが楽しい町へ 放課後児童クラブの拡充を

町長：教育委員会と連携しながら取り組んでいく

坂井 子ども・子育て支援新制度が本年4

月からスタートしており対象児童も小学6年生までとされている。また保護者の就労だけでなく、保護者の疾病や介護なども該当することに拡大されているが、本町では、児童クラブの対象は小学3年生までとなっており、さらに一部の学校では、実際の受け入れが2年生までしかなされなかったことを非常に残念に感じている。

そこで、今後の児童クラブの拡充に向け、現在の問題点を含め町長の考えを伺う。

また、児童クラブの整備に向けて、学校施設を活用した実施促進が求められている。余裕教室の徹底活用、特別教室の放課後等の一時的な利用の促進に対しての教育長の見解を伺う。

町長 拡充に向けた現在の問題点としては、

受け入れる教室不足と児童支援員の確保である。国において、放課後児童健全育成事業として、全

国で平成31年度末までに放課後児童クラブの受け皿を新たに約30万人分整備し、全小学校区約2万カ所放課後子ども教室と一体的に、または連携実施し、うち1万カ所以上を一体型で実施しようとしている。

その事業展開の一つに子育て支援員研修事業がある。本町においても、道で実施する研修について、補助員の受講奨励をしていきたいと考えている。受け入れるスペースの問題、支援員の確保について、引き続き教育委員会と連携を図りながら対応していきたい。

教育長 教室の徹底活用、特別教室の放課後等の一時的な利用について、各小中学校では、指導方法の工夫改善ということ、1つの学級を複数に分けて教える習熟度別の指導も取り入れており、現時点では、各学校には余裕教室がない。

また、特別教室の活用については、それぞれが設備的にも特化した教室となっており、一般的に

は児童クラブでの活用は困難。

教育委員会としても、本町の子育て支援において放課後児童クラブの事業は大変重要なものと考えており、可能な限り協力していきたい。今後、学校現場はもとより、福祉をはじめとした町長部局とも十分連携を図りながら取り組んでいく。

統合保育所の建設に弾力のある検討を

坂井 建設予定の統合保育所は、未満児は

統合保育所で保育を、3歳児以上は私立の認定こども園で保育が教育を受けさせるということであり、幼保一体化による教育、保育の充実を図るものと思うが、まず保護者の意向を考慮しなければスムーズな移行ができないと心配される。

開設後に混乱が起きないように、保護者のニーズに対応した柔軟な施設運営ができるよう、弾力性をもった施設建設が必要と思うがどうか。

町長 基本設計の中で再度精査しながら、人員のあり方、床面積等の検討をしていきたい。

防災に女性の視点とヘルプカードの導入を

坂井 災害時、女性特有

のニーズ、また、障がいのある方や高齢者に細やかに配慮ができる体制づくり、女性の視点からの備蓄品等を含めた避難所運営に取り組むことが大切と思われる。

かねてより俱知安町防災会議への女性の登用が求められているが、その現状を伺う。

ヘルプカードは、東日本大震災において障がいのある方が避難所などの意思疎通に苦労した体験を教訓に、手助けが必要な障がいのある方や高齢者が携帯することにより、災害時や緊急時、日常生活の中で困ったときなどに必要な配慮や支援を周囲の方からお願いするためのカードである。支援を求める人と支援をする人とを結ぶヘルプカー

ドを本町でも導入していくことができないか。

町長 防災関係機関及び関係団体に依頼し、

女性委員を増やすべく任命手続を進めており、今後も、女性委員の比率を上げるよう取り進めていく。防災会議では、女性の視点から災害時に反映できる計画づくりを進めていく。

また、ヘルプカードは後志圏、さらには全道規模以上で実施することで効果が最大限に発揮されると考え、北海道に対して導入に向け働きかけていく。町としても、それに合わせてヘルプカードの導入をしていきたい。

